

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「竹取物語 ～天人の迎へ～」問題①

①かかるほどに、宵^②うち過ぎて、子の時ばかりに、家のあたり屋の明かさにも^③過ぎて

④光りアたり。望月の明かさを、十^⑤合はせイたるばかりウにて、^⑥ある人の毛の穴さへ^⑦見ゆる

ほどなり。大空より、人、雲に^⑧乗りて^⑨降り来て、地より五尺ばかり^⑩上がりオたるほどに、

⑪立ち連ね^カたり。内外^キなる人の心ども、物に^⑫おそは^クるる^ケやうにて、あひ^⑬戦は^コむ心もな

かりサけり。からうじて^⑭思ひ起こして、弓矢を^⑮とりたてシムと^⑯すれども、手に力もなく

⑰なりて、^⑯萎えかかりスたる中に、心さかしき者、^⑯念じて^⑲射セムとすれども、ほかざまへ

⑲行き^ソければ、^⑳荒れも^㉑戦はで、心地ただ^㉒痴れに^㉓痴れて、^㉔まもりあヘタリ。

⑳立て^チる人どもは、装束のきよらなること、物にも^㉕似ツズ。^㉖飛ぶ車一つ^㉗具しテたり。

羅蓋^㉘さしトたり。その中に王とおぼしき人、家に、「造麻呂、まうで^㉙来。」と^㉚言ふに、

猛く^㉛思ひナつる造麻呂も、物に^㉜酔ひ^ニたる心地^㉝して、うつぶしに^㉞伏せヌリ。^㉟いはく、

「なむぢ、をさなき人。いささかなる功徳を、翁^㉛つくり^ネけるに^㉜よりて、なむぢが助けに

とて、片時のほどとて^㉛くだしノしを、そちらの年ごろ、そちらの黄金^㉜賜ひて、身を^㉝変へ

ハたるが^ヒごと^㉛なりフにヘたり。

